



量りしれない命を受
け継いで

今朝の新聞に、神戸垂水の桃山三佐代さんとおっしゃる37歳のおかあさんが、次の文章を書いてくださっていました。

わたしが、今あるのは、いのちが途切れていないからです。
父母から、それぞれの祖父母、そのまたそれぞれのひいおじいさん・ひいおばあさん……。そのうちのどれ一人がかけてもこのわたしはいない。

この計り知れない命に気づき、この無量のいのちを受け継いで生きていくわたしと気づけば、人は堂々と真っすぐに生きられるはずで。

息子はアノマロカリスが大好き。
三葉虫の時代に繁栄し、やがて絶滅してしまっただ生物です。

「絶対に会えないんだネ。いなくなっちゃったんだネ」と、息子は涙を浮かべ、図鑑を眺めて黙りこくってしまいます。
ところが、次の瞬間、息子は目を輝かせました。

「ピカイアはぼくの中にいるよ。ピカイアからのいのちは僕に続いているんだネ」
代に、この地球上に初めて現れた脊索(せきさく)動物。
ピカイアとは、アノマロカリスと同じ時代に、この地球上に初めて現れた脊索(せきさく)動物。

人間など脊椎動物の一番の祖先なのだ。
紛れも無く私や息子の祖先なのだ。
肉食のおそろしいアノマロカリスから素早く逃れるために、背骨ができたのだそうです。

遠い昔も昔、人が生まれるずっと前からいのちは途切れることなく、続いているのでした。私にむかかって、この子にむかっ

この子、いま六歳。
思わず抱き締めたくまりました。

この桃山さんの文章を読みながら、わたし、あらためて南無阿彌陀仏、帰命無量寿如来の如來さまのお呼び声を聞いたような思いがいたしました。

「量り知れない無量のいのちをより所に生きようね」と呼んで下さる如來さまのお呼び声を。



清浄歡喜智慧光
不断難思無称光
超日月光照塵刹

宇宙には、約1,000億の銀河がある。
その銀河のそれぞれには、おおよそ1,000億の恒星があるという。いま生まれ

たばかりの星、流星となって消えて行く星。汚い星、清く輝く星。このはてしない宇宙には数えきれない邦や世界が、ちょうど塵をばらまいたように散在している。
その大宇宙と同じような小宇宙が人間の世界、わたしの世界なのかもしれない。
そこには貪欲(むさぼり)・瞋恚(にくしみ)・愚痴(おろかさ)の星がまたたくしている。また時間的にも思考のうえでも、表現のうえにおいても、「我」という窮屈な枠組みからでられないでいる星たちもまた住んでいる。

この大宇宙、小宇宙を覆い、日月の光とは比べようもない不可思議な光を放って、清浄に、喜びに輝く、智慧みちみちた星にしたいと、いつでもあらゆる限定をうちやぶって照らす無量寿・不可思議の光。その光のなかに生まれかわろうと、おすめくたさる。

勝林寺

山門・鐘樓

終に完成



葬儀

九月六日 栗尾

田中 幸一様

九月二十五日 出石松ヶ枝

中島 敏彦様

十月のこよみ

- 三日 近畿地区仏婦大会
- 三日 出石組合心佛奉仕団
- 四日 出石組合心佛奉仕団
- 四日 西方寺報恩講
- 五日 西方寺
- 蓮如上人五百回遠忌法要
- 住職継職奉告法要
- 別修報恩講準備三役会議
- 六日 十六夜会役員会
- 九日 兼井正美氏宅忌明法事
- 十日 横山広義氏宅法事
- 十五日 会定例法座
- 十一日 田中輝幸氏宅忌明法事
- 十二日 西宗寺報恩講
- 十二日 西宗寺報恩講
- 十八日 田村春男氏宅法事
- 十八日 岩出家墓地分骨法要
- 十八日 金久孟登子氏宅法事
- 十九日 善立寺報恩講
- 十九日 善立寺報恩講
- 二十二日 十六夜会定例法座(勝林寺)
- 二十二日 西脇正文忌法要
- 二十三日 別修報恩講
- 二十三日 長専寺報恩講
- 二十五日 教区御同朋総結集退会
- 二十六日 長専寺報恩講
- 御同朋総結集大会
- 中山重雄氏宅法事
- みのりをきく会定例法座



お波さんのお念佛

あるとき熊本に行く用事があって羽田から飛行機に乗りました。機内に入って自分の席にちかずくと、隣のシートにお婆さんがチョコンと座っています。

草履を脱ぎ両足を上げて正座をなさっている。見るとちゃんとシートベルトをしめ胸のあたりで両手を合わせています。やれやれと思っても腰をおろすと、低い声でなにかモグモグいっているのが聞こえてきます。始のうちはそれがなにを言っているのか見当がつかなかったが、ふと「お念佛」であることがわかりました。お婆さんはナンマンダブー、ナンマンダブーと唱えていたのです。

やがて飛行機が動きだし、大きなジェットエンジンの音を吐き出しながら離陸します。それでもお婆さんのお念佛はやみません。雑音にかき消されたり、かと思ふと耳元に聞こえてきたりして、一定のリズムをたもっているようだった。

始め私は、お婆さんは飛行機に乗るのが怖いのではないかとおもっていた。わたしも空の旅は苦手であったから、その不安をまぎらわすためにお念佛を唱えているのではないかと思っただけです。

一時間ほど飛行機は無事熊本につきました。ゆっくり時間をかけて定位置にとまりました。ちょうどそのときになってお婆さんは静に口を閉じて、シートベルトをはずしたのです。

私はおもわず「無事に着いてよかったですね」と申しました。するとお婆さんは、これ以上ない明るい笑顔をうかべて、「ほんとに、おかげさまで……」と、ひかえめに言葉をかえされました。

正直いってお婆さんは空を飛んでいる間中不安でいっぱいだったのだと思う。だがお念佛申すうちに気持ち次第に落ち着いてきたのではないのだろうか。というのも機中のお婆さんの表情には不安の影はほとんどみられなかったからです。それだけに熊本空港に着いたとき「ほんとうに、おかげさまで……」とボツリといったお婆さんのことばがわたしの心にひびきました。大いなるもの、あかるく軽々とした人のすがたよ。

わたしは蓮如上人のおすすめてくださったお念佛をお聞かせいただくたびに、あのお婆さんのお姿をおもいかへます。すべてを「たすけたまえとたのむ」と、如来願力にまかせきった人の明るさとおさを。

思わずナムアマミダブツとお念佛申しているわたしであります。『ないおん』より



別修(敬老) 報恩講へ 集いませしよろ

一足飛びに秋も深まってきました。今年も別修(敬老)報恩講へおまいりさせて戴きましよう。

山門・鐘樓の改築が完成。

この近辺では見たこともないすばらしい出来栄です。当初なんでも前坊守さまのご法事(七月二十五日)までにはということでしたが、次ぎはお盆までとなり、終には秋彼岸会と、難渋に難渋を重ねての完成でありました。

刻苦勉勵ということばどおり、苦心をきざみつけるように、勉め励んでくださる工事関係者に、日々感動させられました。いまとなっては、工期遅延をあげつらうより何より、研ぎ澄まされた技能と努力に全幅の敬意を捧げねばならぬと思えます。

第十七回目のこの別修報恩講に、老若ともども、新装成った鐘樓の鐘の音にさわられ、お念佛もろとも山門をくぐるよろこびは、まさに千載一隅のご縁でしょう。例年どおり仏壮・仏婦会員こそぞってお待ち致しています。誘い合い励まし合ってお参りくださいませ。

仏壮会長 中島 武志
 仏婦会長 岩上加代子

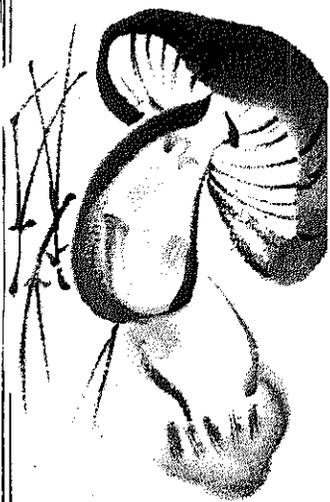
送迎バス運行時刻表

栗尾	四〇〇	正法寺	四、〇五
出合	四、一五	矢根	四、二五
和屋	四、五〇	榎見	五、〇〇
坪口	五、〇五		

上小田

進行 開会

- 【一部】
- ① 仏壮会長あいさつ
 - ② おつとめ『正信偈』(草譜)
 - ③ 法話
 - ④ ビデオ上映「こどもたちよ」
- 【二部】
- ① 仏婦会長あいさつ
 - ② おとき
 - ③ 門徒総代あいさつ
 - ④ 懇親演芸会
- (閉会九時予定)



短 信

☆山石組念佛奉仕団
 十月三・四日、例年どおり念佛奉仕団が本山奉仕に上山(ご本山に覆い参り)いたします。今年には仏行事と重なるためいつもより小人数ですが、勝林寺からは門徒4名と副住職が参加いたします。

☆蓮如上上人五百回遠忌
 任職継職奉仕口法要
 十月五日、出石町青田の西方寺でこの両法要がお勤まりになります。朝九時から開始で、福成寺からのお稚児さんを交えたおねりもあり、ご法話は兵庫教区教務所長さまです。

☆十一・八夜△云し法座

この会は、出石町若婦人の開法会です。十六日の夜、町内寺院七ヶ寺を一年間輪番で勤めています。十月から一年、勝林寺が当番です。日時はその都度おしらせします。時間をつくりだしてお参りください。

☆御同朋総結集大△△

親鸞さまは、わたしたち門徒に対して、恭しく「御同朋」(ごきょうだいの)と呼んでくださいました。蓮如さまも、お同行を呼ぶのに「方々」と呼ぶではない。「御方々」とおよびしなさいといわれました。ところが、そう呼ばれているわたしたちのなかに、ともすれば組織のあいだの張り合いや差別などがありはしなかったでしょう。

何年に一度でも、その確執をこえて、みんな御同朋きょうだいとして、集まりたいという願いからはじめられたのがこの結集大会です。あなたも一度参加して、きょうだいのよろこびを共にしてみませんか。

